

*Kite Society Concert*

カイトソサエティー  
21世紀最初のコンサート

とき： 平成 13 年 8 月 12 日 (日)  
14:00 開演  
ところ： 若里市民文化ホール





本日はカイトソサエティーの演奏会にお越しいただきありがとうございました。

カイトソサエティーは長野高校合唱班のOB、OGのメンバーによって構成されている会ですが、単なるOB会としての活動のみならず、合唱への熱い思いを持続して、創立以来、ささやかなコンサートの開催もして参りました。しばらく開催が滞っておりました近年、母校長野高校が創立100周年を迎えることになり、この機に記念演奏会をという声が高まって、久々のコンサートを実施したのが一昨年になります。そして、このコンサートの感動を継続したいという熱い思いが、本日の演奏会として結実したわけであります。

本日のステージでは、この春高校を卒業したばかりのOB/OGから、50代半ばを迎えたOBまで幅広い年齢層の皆さんが、全国各地から駆けつけて参りました。久々に顔を合わせるメンバーもおりますし、中には少々練習不足という方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、「同じ釜の飯」のメンバーです。心をひとつに歌っていけるものと思っております。

今年は、長野地区のほかに東京地区での熱心な練習もあり、混声合唱の大曲にも挑戦することができました。女性パートには団友としての参加もいただき、大変に心強い思いをしております。これらに往年のレパートリーも加え、美しいメロディーの中に「金鷄健児」の思いのたけをぶつけさせていただければ幸いです。

拙い演奏かとは存じますが、どうぞごゆっくりお聴きくださいませ。最後になりましたが、ご後援、ご支援をいただきました各機関に対し厚く御礼申し上げます。本日の歌声が、お越しいただいた皆様と参集下さったカイトメンバーそれぞれの、明日への大いなるエネルギーになることを願ってご挨拶といたします。

## 《プログラム》

1. 混声合唱組曲 IN TERRA PAX 地に平和を  
作詞 鶴見正夫 作曲 荻久保和明

- I 知った  
II OH MY SOLDIER  
III 花をさがす少女  
IV ほうけた母の子守歌  
V IN TERRA PAX

指揮 和田 朗 (29回卒)  
ピアノ 深沢 雅美

2. 賛助演奏

長野高校合唱班  
指揮 小林 泉 先生

…………… 休憩 ……………

3. 男声合唱組曲『雨』 作曲 多田 武彦

- I 雨の来る前 作詩 伊藤 整  
II 武蔵野の雨 作詩 大木 惇夫  
III 雨の日の遊動円木 作詩 大木 惇夫  
IV 雨 雨 作詩 尾形亀之助  
V 雨の日に見る 作詩 大木 惇夫  
VI 雨 作詩 八木 重吉

指揮 石坂 幸一 (20回卒)

4. 愛唱歌集から

- ・ 学生歌 ドイツ民謡
- ・ 菩提樹 作曲 シューベルト
- ・ 春を待つ (男声合唱組曲「雪明かりの路」から)  
作詩 伊藤 整 作曲 多田武彦
- ・ 聞こえる 作詩 岩間芳樹 作曲 新実徳英
- ・ 河口 (混声合唱組曲「筑後川」から)  
作詩 丸山 豊 作曲 團伊玖磨

指揮 和田 朗 (29回卒)  
ピアノ 深沢 雅美



### “カイト”の誕生と今

会の名称は長野高校校章の金鷄 (KITE [英] = “鷄”) による。「歌うとんびの仲間」。1965年 (昭和40) 8月、結成。初代会長は須田勝弘さん (故人)。

第1回演奏会は翌年4月、その後、毎年長野高校合唱班に賛助いただき盛大な定期演奏会を開催。第20回定期演奏会 (1986.8.10) の後、活動休止状態となった。

一方、長野高校合唱班はこの時期に女声合唱班と男声合唱班の併設時代を経て、男声合唱団から混声合唱団に変貌を遂げ、活躍するようになりました。

一昨年5月、再びカイトで歌おうという機運が高まって、長野高校の合唱班に籍を置いたすべてのOB、OGの組織として「新生カイト」が誕生し、従来のカイトの活動を継承していくことになり、母校創立100周年記念演奏会を開催した。21世紀にも歌いつづけるため、今回の演奏会の開催となった。現在の会員はおよそ500人。



## 《プログラムノート》

### ■ 混声合唱組曲 IN TERRA PAX 地に平和を

戦争の恐ろしさを、むごたらしさを知らない太郎が、ベトナム戦争の一枚の写真から戦争を知ることになる。その写真を見つめるうちに太郎は銃で殺される少年のまぼろしを見、決してそれが人ごとでないことに気づく。この組曲の第1曲は、想像力で戦争を実感することを我々に要求してくる。戦後50年以上をへた日本は、戦争の直接的な悲惨さに鈍感になってしまった。大国が何度も地球を滅ぼすほどの兵器を抱えていても、世界のどこかで実際に戦争がおこり血が流され人々が殺され続けていても、恐れや痛みをもってそれらのことを受け止めることが無くなってしまった。

しかし思想の違い、宗教の違い、民族の違い、どんな困難な問題があろうとも、人が人を殺すということは異常なことだ。戦士たちへの鎮魂の歌「OH MY SOLDIER」、美しい花への愛とそれを打ち砕く戦争の悲惨さを描く「花を探す少女」、消え去ることのない怒りと怨念を歌った「ほうけた母の子守歌」。そして、平和を希求してやまないその情熱がふつふつと湧いてくる「IN TERRA PAX」。

21世紀を迎えて、私たちはもう気付きはじめています。銃をつきつけているのは平和が実現しないことを。ただ、自分の命と引き換えてもそのことを主張する勇気がまだ湧いてこないのだ。作詞者は、「全篇にこめたものは静かな“禱り”の心である」と言っている。この組曲を歌うと、“禱り”は必ず実現される、と予感させられる。そんな勇気が湧いてくる。

(和田 朗)

### ■ 男声合唱組曲 『雨』

静かな雨の日。物売りの声も聞こえない。子供達が遊び回る声も聞こえない。

誰もいない公園の水たまり...

雨の風景は、見る者の心を日常の生産活動から静かに引き離し、沈黙考の時を与えてくれる。男声合唱組曲「雨」は、作曲者多田武彦が真夏から初冬にかけて四季の移ろいとともに様々な趣を見せる雨を通して、人生のいろいろな局面を表現した珠玉の作品である。

第1曲「雨の来る前」でははつらつとした活気溢れる若さを、第2曲「武蔵野の雨」では初秋のクヌギ林に溶け込むような安堵感を、3～5曲では人生の節目で感じる孤独感や焦燥感を、そして終曲では雨があがる時のように静かに世の為に働いていよう、と歌う。

私達カイトのメンバーは若き学生から、転職や会社整理を体験した熟年層まで様々な学業、職業に就いている。親子ほどの年齢差のある者達が同じステージで歌う。それぞれの職業生活、家庭生活を通して、雨が大地に染み込むように、この世の中に静かに足跡を残してゆきたい。

(石坂幸一)

■「学生歌」 古く、ヨーロッパ中世の起源といわれる学生歌。世界中共通の学生合唱のテーマ・ソングである。原曲はラテン語。

■「菩提樹」 歌曲の天才シューベルトの最も有名な歌の一つ。ジルヘルの編曲で男声合唱曲としての別の生命を吹き込まれ、歌曲とはまた違った雰囲気をかもし出している。

■「春を待つ」 組曲「雪明りの路」という、小樽の冬の風物を歌い込んだ組曲の第1曲。冬の日温かな陽射しのうれしさと春へのあこがれが抒情豊かに歌われる。

■「聞こえる」 平成3年度NHKコンクール高校の部の課題曲。環境問題とか若者の無力さとか、重いテーマを歌っているが、歌っていくと何ともいえないエネルギーが、そして熱い思いが沸きあがってくる曲である。

■「河口」 組曲「筑後川」の第5曲。阿蘇にふった雨が幾つもの支流を合わせて大河に育ち、有明海へそそぐまでの、川の一生を歌った組曲のフィナーレである。筑後川は、筑後平野の百万の人たちにとって、永遠の母なる大河である。

(和田 朗)

## 《プロフィール》

### ◆ 深沢 雅美 さん [ピアノ]

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部、同研究科修了。イタリア、フランスの夏期講習マスタークラスを受講。94年、98年リサイタルを長野、松本にて開催。ながの音楽祭にて服部譲二氏と共演、長野県内のオーケストラとピアノコンチェルトを共演、八十二文化財団主催により、N響メンバーによる室内楽の夕べに出演。

現在、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」長野教室講師、長野県小諸高等学校音楽科非常勤講師を務める傍ら、ソロ、室内楽、デュオなど演奏活動を行っている。長野市出身。

### ◆ 長野高校合唱班 [賛助出演]

1986年(昭和61)より混声となる。今年は7月の金鷄祭でのステージ発表に続き、一週間後には若里市民文化ホールで第28回定期演奏会を開催、また翌週のNHKコンクール長野県大会では堂々3年連続の金賞を受賞した。少人数ながら様々なジャンルに挑戦し、迫力ある歌声を聞かせてくれる。

### ◆ 小林 泉 先生 [長野高校合唱班 指揮]

1991年(平成3)から長野高校音楽科教諭。合唱班のほか、吹奏楽班、管弦楽班の顧問としてもご活躍。先生の温かな人柄と情熱あふれるご指導のもと、生徒がのびのびと、それぞれの音楽づくりを楽しみ、かつ質の高い域に達している。



*Kite Society Concert*



カイトソサエティー

(長野高校合唱班 OB・OG 会)

<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/2664/>

事務局 Tel/Fax 026-241-4414